

2020年度

医薬品包装セミナー (オンライン配信)

—SDGs、医療安全の実現に向けた 医薬品包装の役割を考える—

日時 令和3年3月26日(金)

主催 公益社団法人日本包装技術協会

プログラム Program

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:10	<p>◆『環境と包装 (新しい環境課題下でのバイオマスプラスチックの動向と医薬品包装)』</p> <p>温室効果ガス排出削減に関心が持たれ、パリでのCOP21で排出削減の実効が宣言されたが、先のCOP25においても行き先は不透明のままである。我が国の対応はヨーロッパ等に比べ既に周回遅れではあるが、2016年の地球温暖化対策計画において、バイオマスプラスチック導入による削減目標が設定(2030年に197万t/年、207万t-CO₂/年)された。また環境中に放置されたプラスチックがマイクロプラスチック化し、海洋に出た場合は海洋プラスチックとなって陸域水域環境を大きく汚染することが報道されて、我が国の消費者の関心が一層高まりつつある。これらを受け、政府内、各省庁においては関連の政策討議が活発化しているが、取り分けコンビニ等でのレジ袋有料化が決まり、2020年7月実施に向け、具体的ガイドラインが定まりつつある。そこではバイオマス由来成分を25%以上含むものが有料化の義務から外れることになった。これにより、バイオマス由来製品が大きく展開するとの期待が大きく、業界の動きが活発化している。この潮流の下で、これまで包材としての機能、安全性に主体がおかれて発展してきた医薬品包装の今後について素人の視点ではあるが、考えてみたい。</p>	<p>一般社団法人 日本有機資源協会 副会長 北海道大学 名誉教授 木村 俊範 氏</p>
11:20 ▼ 12:30	<p>◆『Protection & Usability をコンセプトとしたこれからの医薬品個装箱』</p> <p>パッケージには、輸送や保管における内容物の保護や情報を正しく伝えるといった役割がある。中でも医療用医薬品の包装は、医薬品卸から病院・薬局を通して患者の手に届くまでの安全性を保つことが絶対条件であろう。安全・安心な流通や処方を目指す、販売包装単位の個装箱における封の見直しが進められ、また、改正薬機法においては医療用医薬品の添付文書の電子化が施行される。</p> <p>弊社では、こういった動きに対応したこれからの医薬品個装箱を、薬剤師等の作業性を低下させることなく、さらには患者の服薬アドヒアランス向上にもつながるようなものとして設計に取り組んでおり、その一部を「Protection&Usability をコンセプトとしたこれからの医薬品個装箱」というテーマで紹介したい。</p>	<p>富山スガキ株式会社 企画制作部 設計開発課 課長 医薬情報室 室長 跡治 立多 氏</p>
13:30 ▼ 14:40	<p>◆『薬物治療と服薬管理』</p> <p>医療技術や医薬品の進歩、医療費の問題などにより、薬物治療の多くは外来、もしくは在宅で行われることが多くなっている。この傾向は今後も増加する見込みである。しかし、外来治療では薬剤服用の有無はブラックボックスであり、医療者は性善説に基づき患者からの申告を信じるしかない。薬物治療では、患者が薬剤を服用しなければ効果は得られず、過量に服用すれば副作用のリスクが高まる。さらには、ポリファーマシーや大量の残薬、医療費の増大など薬物治療をめぐる問題は山積している。本発表では、こういった問題に触れながら服薬の可視化がもたらす可能性と限界について考える。併せて、製薬企業から出荷される個別包装(PTP包装など)と一包装の利点と限界、包装が果たせる役割などについても考えてみたい。</p>	<p>株式会社MediFrame 代表取締役 和田 敦 氏</p>
14:50 ▼ 16:00	<p>◆『選ばれる医薬品表示や包装とは ~医療安全の観点から~』</p> <p>医薬品表示や包装は、1990年代半ば頃から急激な進化を遂げた。PTPシートへのカナ表示、ピッチコントロール印刷、1錠毎のバーコード印刷、錠剤本体への医薬品名の両面印刷、規格のカラー印刷、注射薬におけるキット製剤の開発、2層ラベル・副片ラベルの導入、オートインジェクターの開発、個包装の省スペース化、開けやすさ・つぶしやすさの追求など枚挙にいとまがない。このような知恵と工夫は元々他剤との差別化を図ろうとする後発メーカーにおいてより盛んであったが、近年は先発メーカー全体にも広がっている。特に、外用薬や注射薬へのシュリンク包装の導入、CR・SFへの挑戦など、医療現場のみならず在宅での安全管理にも配慮した製剤設計が取り組まれている。今後、デジタルトランス・フォーメーションが急速に進むなかで、求めされる医薬品表示や包装も激変する可能性がある。浅学ではあるが、今回は医薬品を採用する立場から、医療現場が望ましいと考える医薬品表示や包装について考えてみたい。</p>	<p>京都府立医科大学附属病院 薬剤部長 医薬品安全管理責任者 臨床治験センター 副センター長 四方 敬介 氏</p>

講師のご紹介

木村 俊範(キムラ トシノリ)氏 一般社団法人日本有機資源協会 副会長 北海道大学 名誉教授

【ご略歴】

1978年北海道大学大学院博士課程修了
1977～1993年 岩手大学農学部助手・助教授
1993～2000年 筑波大大学院農林工学系
助教授・教授
2000～2005年 筑波大大学院生命環境科学
研究科教授(専攻長)
2005～2012年 北海道大学農学研究院教授
2012年 北海道大学名誉教授
(有資格)1978年農学博士(北海道大学)
(著書)食品のゼロエミッション・出さない・捨て
ない・リサイクル(編著)幸書房2003年、バイオ
プラスチックの高機能化・再資源化技術(分担執
筆)NTS出版2008年、コンポスト化技術による
資源循環の実現 シーエムシー出版2009年

跡治 立多(アジ リユウタ)氏 富山スガキ(株) 企画制作部 設計開発課 課長・医薬情報室 室長

【ご略歴】

平成4年3月富山スガキ株式会社 入社
企画開発部に配属、以後、広報・販促物の企画・デザ
イン業務に従事
平成23年頃より医療用医薬品パッケージのユー
ザビリティ調査を開始
平成25年3月企画制作部 制作2課及び医薬情報
室 課長
平成28年3月企画制作部 設計開発課及び医薬情
報室 課長
現在、企画制作部 設計開発課 課長及び医薬情報
室 室長

和田 敦(ワダ アツシ)氏 (株)MediFrame 代表取締役

【ご略歴】

平成12年3月 神戸薬科大学薬学部
薬学科 卒業
平成14年3月 神戸薬科大学大学院
修士課程 修了
平成14年4月 神戸大学医学部附属病院 薬剤部
平成25年4月 神戸低侵襲がん医療センター
薬剤部 主任薬剤師
平成27年10月 同 治験 臨床研究支援センター
副センター長(兼務)
平成29年10月 株式会社 MediFrame 設立
平成23年4月～ 武庫川女子大学 薬学部
非常勤講師
(有資格)薬剤師、日本医療薬学会がん指導薬剤師、
日本医療薬学会指導薬剤師 など
(著書)がん化学療法レジメンハンドブック(共著)
臨床腫瘍薬学(共著)など

四方 敬介(シカタ ケイスケ)氏 京都府立医科大学附属病院 薬剤部長/ 医薬品安全管理責任者/臨床治験センター 副センター長

【ご略歴】

昭和61年3月 大阪薬科大学薬学部薬学科卒業
昭和61年4月 京都府立医科大学附属病院
薬剤部研修生
平成25年4月 京都府立医科大学附属病院
薬剤部長
平成25年6月～京都薬科大学 特定教授
平成28年4月～京都先端科学大学
健康医療学部看護学科
非常勤講師
(有資格)日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師
他
(著書)治療薬ハンドブック、今日の治療指針、重
大な副作用回避のための服薬指導情報集、他

企画委員

◆本セミナーは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

清呂木太郎氏 全薬工業(株) OTC開発部 包装企画課 課長
堤 正一氏 岡田紙業(株) 東京支店 支店長
中野 雄仁氏 中外製薬(株) 製薬本部 製剤研究部 包装グループ
中田 清氏 大日本印刷(株) 包装事業部 イノベティブ・パッケージングセンター
製品開発本部 製品開発第1部 第1課
小濱 博信氏 (株)カナエ 開発本部 本部長付
笠谷 尚弘氏 ゼリア新薬工業(株) 生産技術部 係長
美尾 篤氏 藤森工業(株) 生活包装事業部 新規事業開拓課
田代 敏一氏 第一三共プロファーマ(株) 平塚工場 第三製造部 製造第一課 課長

開催要領

日時: 令和3年3月26日(金) 10:00～16:00

※Zoomを利用したオンラインセミナー形式 申込者に事前登録の手順をメールで連絡します

参加費:

1名分参加費 (配布資料代含む)	会員	会員 (3名割引1名あたり)	一般
本体	15,000円	13,000円	20,000円
消費税10%	1,500円	1,300円	2,000円
税込合計	16,500円	14,300円	22,000円

定員: 100名

参加申込方法及び注意事項

【参加申込方法】

- 本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。
お申し込みは当会ホームページの医薬品包装セミナー参加申込ページよりご登録いただくようお願いします。
当会ホームページURL: <https://www.jpri.or.jp/>
- 参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)
- 申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。
- 申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

お問い合わせ先: 公益社団法人日本包装技術協会 医薬品包装セミナー係 担当: 竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970 e-mail:takeuchi@jpri.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「2020年度医薬品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。